

教師に必要な資質能力に関する研究 (1)

— 現職教員が認知する資質能力の要因とその構造の検討 —

古川 雅文*・長澤 憲保*・横川 和章**・福本 謹一***

畑野 裕子****・河相 善雄*****・中刈 正亮*****

(平成10年9月21日受理)

近年、われわれは時代や社会の急激な変化の中にいるといわれる (Sculley, 1987; 増田, 1986)。すなわち、国際化、情報化によって社会は大きく変わろうとしているように思われる。一方、こうしたなかにあって、学校教育においては、さまざまな問題が発生し、緊急の対策が叫ばれている。そして、こうした問題発生背後に「新しい時代」、「新しい社会」の到来があり、新しい教育、新しいシステムが必要とされており、われわれはどのようなシステムに移行すべきかの岐路に立っているという (藤田, 1997)。

こうした新しい時代に求められる教師とはどのような教師であろうか、彼らに必要な資質能力とはどのようなものであろうか。こうした疑問から本研究は出発した。また、この疑問に答えることは、大学における教員養成や現職教員研修においてどのような領域に力を入れるべきかについても参考となるデータとなるであろうと考えた。

本研究においては、教師の資質能力に焦点を当てて検討する。この種の能力的なものを指すことばとしては、教師の力量とか、授業技術であるとか、あるいは、授業に関する知識や技能など、さまざまな用語があり、それらの指している意味は類似しているが若干異なっている。ここでは、これらすべてを比較的広く包含し、文部省でも一般に使用している「教員の資質能力」という用語を使用した。たとえば、平成9年の教育職員養成審議会の答申では、「専門的職業である『教職』に対する愛着、誇り、一体感に支えられた知識、技能等の総体を意味する」と定義され、「『素質』とは区別され、後天的に形成可能なもの」であるとしている (教育職員養成審議会, 1997)。したがって、ここで、この用語を採用したもう一つの理由は、この用語であれば、一般の教員および教育委員会職員にもなじみが深いであろうと思われたからである。

教員の資質能力に関する研究は、これまでにいくつか見受けられるが、資質能力の構造に関する研究としては、

小泉 (1989)、井上 (1993) があげられる。これらの研究では、教師の教職能力全般に焦点をあてているが、調査自体は本研究より10年以上前になされたものである。しかも、これらの研究の結果には、あまり一貫性がみられない。

以上より、本研究の目的は、新時代を迎えようとする今の時点で、教員の認知するこれからの教師に必要な資質能力の要因とその構造について検討することである。そのため、本研究では2つの調査を行った。調査1は、質的なデータを得ての構造分析と、次の調査の質問項目を設定するための基礎資料を得る目的で行った。また、調査2は、調査1の結果を踏まえて、質問紙調査によって、これからの教師に必要な資質能力の構造を検討した。

調 査 1

目 的

大学における教員養成 (学部教育) に対する教育現場からのニーズを探索的に探求する。また、それらのニーズの構造について検討する。さらに、その結果を、より大規模な質問紙調査 (調査2) のための基礎資料として活用する。

方 法

調査対象者 現職の教員など教育関係者17名。その内訳は次のとおり。小学校校長3名、小学校教員5名、中学校校長1名、中学校教員1名、養護学校等教員2名、教育委員会指導主事5名。調査対象者の住所および勤務先は、主として近畿地方 (兵庫県、大阪府、京都府) であったが、中国地方 (岡山県、鳥取県) および九州地方 (福岡県) も含まれた。

調査者 本研究プロジェクトに参加した大学教官8名。質問内容および手続: 各調査者は、対象者の勤務先に出向いて対象者に面接した。対象者には、以下の質問に対して、自由に答えてもらった。記録は、主として筆記

* 兵庫教育大学 学校教育研究センター
 ** 兵庫教育大学 第1部 (幼児教育講座)
 *** 兵庫教育大学 第4部 (芸術系教育講座)
 **** 兵庫教育大学 第5部 (生活健康系教育講座)
 ***** 兵庫教育大学 第1部 (障害児教育講座)
 ***** 兵庫教育大学 第2部 (言語系教育講座)

によった。面接時間は、1時間程度であった。

- (1) これからの教員にどのような種類の資質が必要とされているか。
- (2) これからの教員に特に必要な技能（能力・技術）としては、どのようなものがあるか。
- (3) 大学における教員養成に何を望むか。

（以上の回答に、次のものがぬけていた場合、

(4) 現職教員の継続教育に関して、自由な考えを聞く。
調査者には、面接にあったっての基本的態度として次のようなことに留意するよう伝えた。

- ・調査者は、なるべく聞き役に徹し、多くを語ってもらえるような受け答えをする。（そうですね。そうですか。なるほど。それについて、もう少し詳しく聞きたいのですが。など）
- ・こちらの意見を押しつけず、自由に話してもらう。
- ・ある程度、話題が飛んでもよい。
- ・なるべく、建て前でなく、本音を話してもらう。
- ・協力してもらうという立場であるので、丁寧に応答する。

調査時期 1998年2月

結果および考察

分析方法 各質問への回答の要点を箇条書きでまとめ、カードにした。これに、先行研究（小泉，1989；井上，1993）で使われた質問項目等を加え、最終的に211項目に対応したカードを作成した。それを基に、KJ法により、分類、整理した。項目数が多いため、今回は二段階に分けて作業を行った。まず、4名の研究者が、合議しながら、すべてのカードについて、親近感を覚えるものどうしを集め小チームを編成した。この時点で、97の小チームが出来た。次に、1名の研究者が、各小チームに「見だし」をつけ、内容から見て独立すべきものや新たに必要と思われるものを付け加え112の項目とし、これをカードにした。最後に、現職の教員2名（中学校教員1名、高等学校教員1名）によって、「見出し」カードを基に、さらに大きなチーム編成とKJ法A型による図解が試みられた。

KJ法A型図解の結果 上記の方法で得られたKJ法A型図解をFig. 1に示す。この図に示されているように、最終的に、24の中チームの見出しが得られ、12の大チーム、さらにそれらを包括するグループで構成された。Fig. 1

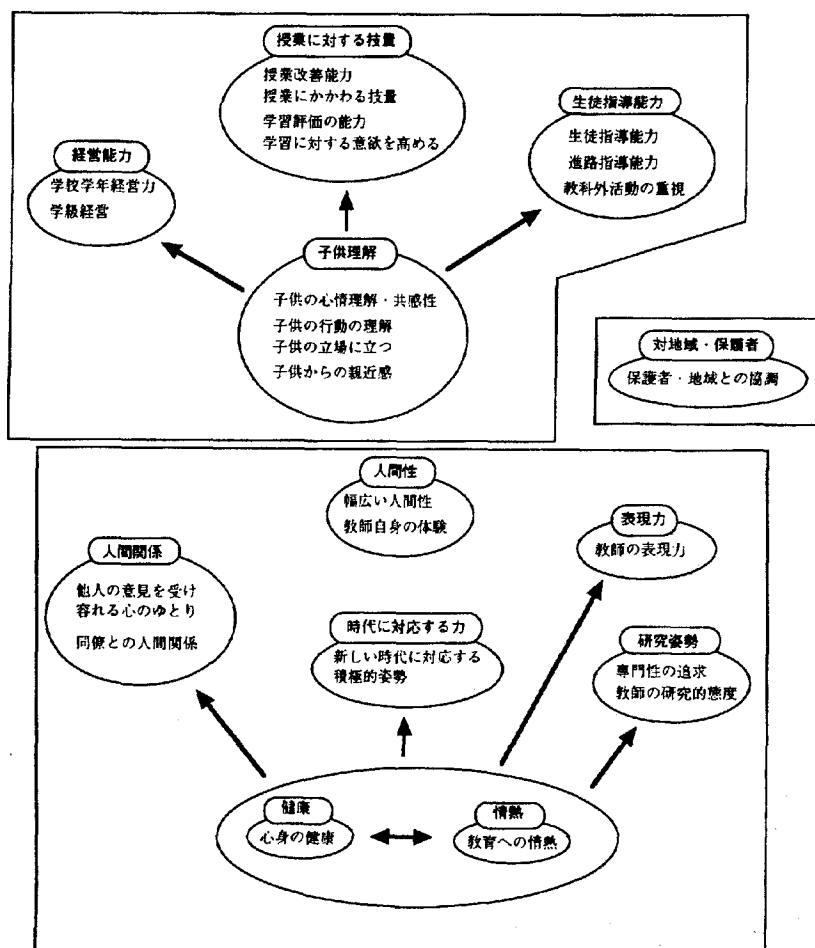


Fig. 1 KJ法（A型図解）による教師に必要な資質能力の構造

は、このうち中チーム以上の見出しを表示したものである。

最も大きな括りとしては、「授業に対する技能」「生徒指導能力」「子ども理解」「経営能力」といったものを含んでおり、これは「教師の職務から必然的に求められる資質能力（文部省，1998）」に対応するものであろう。このなかでは、「子どもの理解」が、他の能力の基礎となる中心的なものと位置付けられた。

また、もう一つの大きな括りとして、「人間関係」「人間性」「表現力」「時代に対応する力」「研究姿勢」、さらには「健康」「情熱」を含むものがあり、これは、「変化の時代を生きる社会人に求められる資質や能力（文部省，1998）」に対応すると考えられる。この中では、教師自身の「心身の健康」や「情熱」が他のものを生み出す基礎となるものとして位置付けられた。

「対地域・保護者」は、ここでは以上2つの括りには含まれないものとして独立させられている。

なお、参考のため、文部省（1998）による、教員に求められる資質能力についての内容を Fig. 2 に引用した。

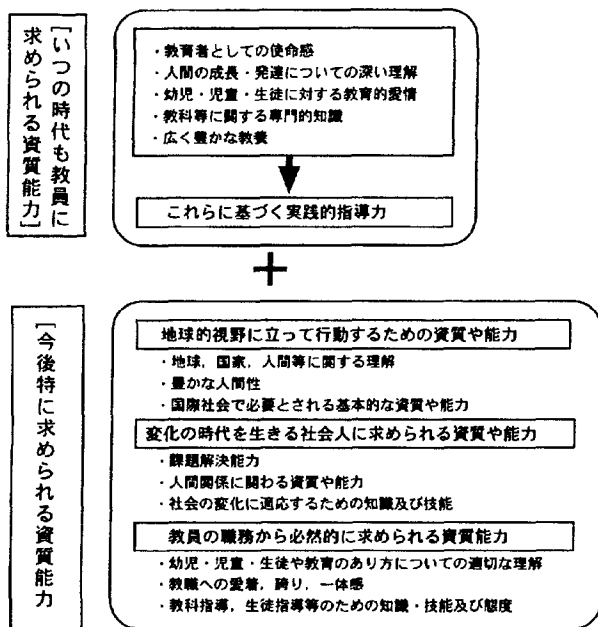


Fig. 2 文部省による、教員に求められる資質能力の内容（文部省，1998より）

調 査 2

目 的

調査1の結果を踏まえ、選択形式の質問紙を作成する。その質問紙により、現職教員、教育委員会の職員の持っている教員の資質能力の認知構造を探る。

方 法

調査対象者 平成8年度までの兵庫教育大学大学院修

了生より、882名をランダムに抽出し、調査対象者とした。修了生住所の郵便番号順に並べ、等間隔に抽出したので、全体の出身地からほぼ均等に抽出したといえる。ただし、母集団の出身地域には偏りがあり、近畿地方の出身者の割合がかなり多くなっている。

調査対象者のうち、回答を返送した者の属性による内訳は Table 1 の通り。

Table 1 回答者の属性（校種と役職）

役職等 校種	学 校				教育委員会等			合計
	教諭	主任	教頭	校長	指導主事等	管理職	その他	
幼稚園	1	0	0	0	0	0	0	1
小学校	63	12	23	22	0	0	2	122
中学校	52	22	5	12	0	0	1	92
高等学校	58	10	3	2	0	0	0	73
盲・聾・養	15	4	1	2	1	0	0	23
大学・短大	0	0	0	0	0	0	8	8
教育委員会	0	0	0	0	17	4	4	25
教育センター等	0	0	0	0	5	1	1	7
その他	0	0	0	0	0	0	14	14

調査内容 調査1において名付けられた中チームの見出しを中心に、その内容や文部省（1998）の資料を参考に新たに4項目を加え、28項目からなる質問票を構成した。それぞれの項目には、その内容の具体例をカッコ書きで付け加えた。（これらの項目については、概観するには因子分析結果の Table 2 を、具体例も含めて詳しく見るには、Appendix 1 を参照。）

また、回答者の属性情報として、校種（または教育委員会）、役職、性別、教職経験年数をたずねた。

さらに、28項目の中で特に重要と思う項目を3つあげてもらった。そして、最後に質問紙にあげられた以外の教師の資質能力で、重要と考えるものがあればということで、自由記述を求めた。

調査手続 調査は郵送法により行われた。すなわち、調査対象者の自宅に調査用紙を郵送し、返信用の封筒で郵送によって回収した。

回収率と分析対象 調査用紙の郵送において、8通が住所の変更等で届かなかった。回収されたデータは、384名分であった。したがって、実質的な回収率は約43.9%であった。このうち、質問紙に不備のあったものの1と、ほとんどの回答が一つの答えに偏っていたもの（たとえば、ほとんどの項目が5点）15を除き、368名のデータを分析の対象とした。このときの除外の基準は、28項目中25項目以上が同一の反応で占められているものとした。

結果および考察

現職教員や教育委員会職員等の認知する、これからの教師に必要な資質能力の要因と構造を検討するため、項目間の相関に基づく因子分析と距離尺度に基づくクラスター分析を行った。

因子分析 各項目間の相関行列に基づく因子分析（主因子法，バリマックス回転）を行った。

このような教師資質の重要度評定のデータに因子分析を適用することは適切とはいえないかもしれない。しか

し，ここでは，教師の資質能力についての構造探索への援用のため，あえて探索的に行ってみた。

その結果，固有値の変動と各因子の解釈可能性を考慮して，5因子解が適当であろうと思われた。Table 2 は，各因子における因子負荷量を示したものである。この表から，第1因子を「授業に関連した能力や技能」，第2因子を「子どもの心の理解」，第3因子を「教師の社会性」，第4因子を「教科外活動の能力」，第5因子を「新時代への態度や技能」と名づけた。

Table 2 各因子における項目の因子負荷量

項 目 \ 因子	1	2	3	4	5
26 授業実践の技術	.75	.13	.05	.16	.04
25 授業改善の能力	.72	.21	.04	.11	.05
23 教育評価の知識・技能	.65	.18	.23	.28	.12
27 カリキュラム開発能力	.58	.13	.03	.08	.31
24 学習への意欲を高める	.50	.27	.23	.31	.01
20 研究的態度	.50	-.00	.17	.03	.32
18 学級経営の能力	.44	.09	.23	.40	.12
03 専門性の追求	.39	.08	.18	.03	.04
21 教育への情熱	.32	.10	.30	.18	.11
12 子どもの立場に立つ	.13	.78	.26	-.00	.15
10 子どもの心情理解・共感	.20	.74	.14	.21	.07
13 子どもとの親密感	.05	.62	.31	.07	.12
09 子どもの行動理解	.33	.60	.16	.23	.01
11 カウンセリングの技能	.16	.51	.17	.30	.14
15 他者の意見を受容	.13	.22	.68	.12	-.02
16 同僚との人間関係調整	.15	.22	.63	.32	.03
14 幅広い社会性・人間性	.17	.12	.58	.00	.18
22 教師の表現力	.37	.34	.48	.06	.13
05 教師の体験と指導力	.06	.31	.40	.25	.13
17 教師の心身の健康	.07	.09	.33	.15	.05
08 生徒指導の能力	.22	.48	.02	.56	-.05
07 進路指導の能力	.23	.07	.23	.53	.22
06 保護者や地域との協調	.05	.30	.21	.51	.22
19 学校・学年経営の能力	.39	.04	.22	.46	.29
04 教科外活動の知識や技能	.19	.26	.20	.46	.24
02 情報リテラシー	.10	.08	.01	.18	.69
01 新しい時代への積極姿勢	.05	.12	.14	.10	.55
28 国際コミュニケーション	.30	.08	.07	.10	.52
説明率	29.6	6.2	4.0	3.5	2.8

注) 項目名は省略してある。正確な内容については Appendix 1 を参照。

クラスター分析 各項目間の距離得点(平方ユークリッド距離)に基づいて、項目間のクラスター分析を行った。平均距離法による結果をFig. 3 に示した。このデンドログラムから、2つの大きなクラスターがあるようにみえる。それらに含まれる小クラスターをみながらそれぞれの意味を考えてみる。

まず、一方のクラスターには、「生徒指導の能力」「子どもの心情理解・共感」「子どもの行動理解」といった『生徒の理解と指導』に関する能力、「子どもの立場に立つ」「子どもとの親密感」「教師の表現力」といった『教師と子どもの相互理解』に関する能力、「他者の意見の受容」「同僚との人間関係の調整」といった『人間関係・社会性』に関する能力が含まれている。

もう一方のクラスターには、「授業改善の能力」「授業

実践の技術」「学習への意欲を高める」「教育評価の知識・技能」といった『授業関連』の能力、および「学級経営の能力」「学校・学年経営の能力」といった『学校管理・経営』に関する能力、さらに、クラスター化された距離は遠いが、「教科外活動」と「進路指導能力」といったものも含まれている。

これから考えて、前者のクラスターは、人間全般、あるいは社会全般にも共通する、人間性、社会性、共感性といったものであり、後者のクラスターは、授業や授業以外の学校業務に関する教師に必要な能力であると考えることが出来よう。

以上より、因子分析の結果とクラスター分析の結果は、全く違うものというよりは、むしろ、類似した構造を示しているように思われる。

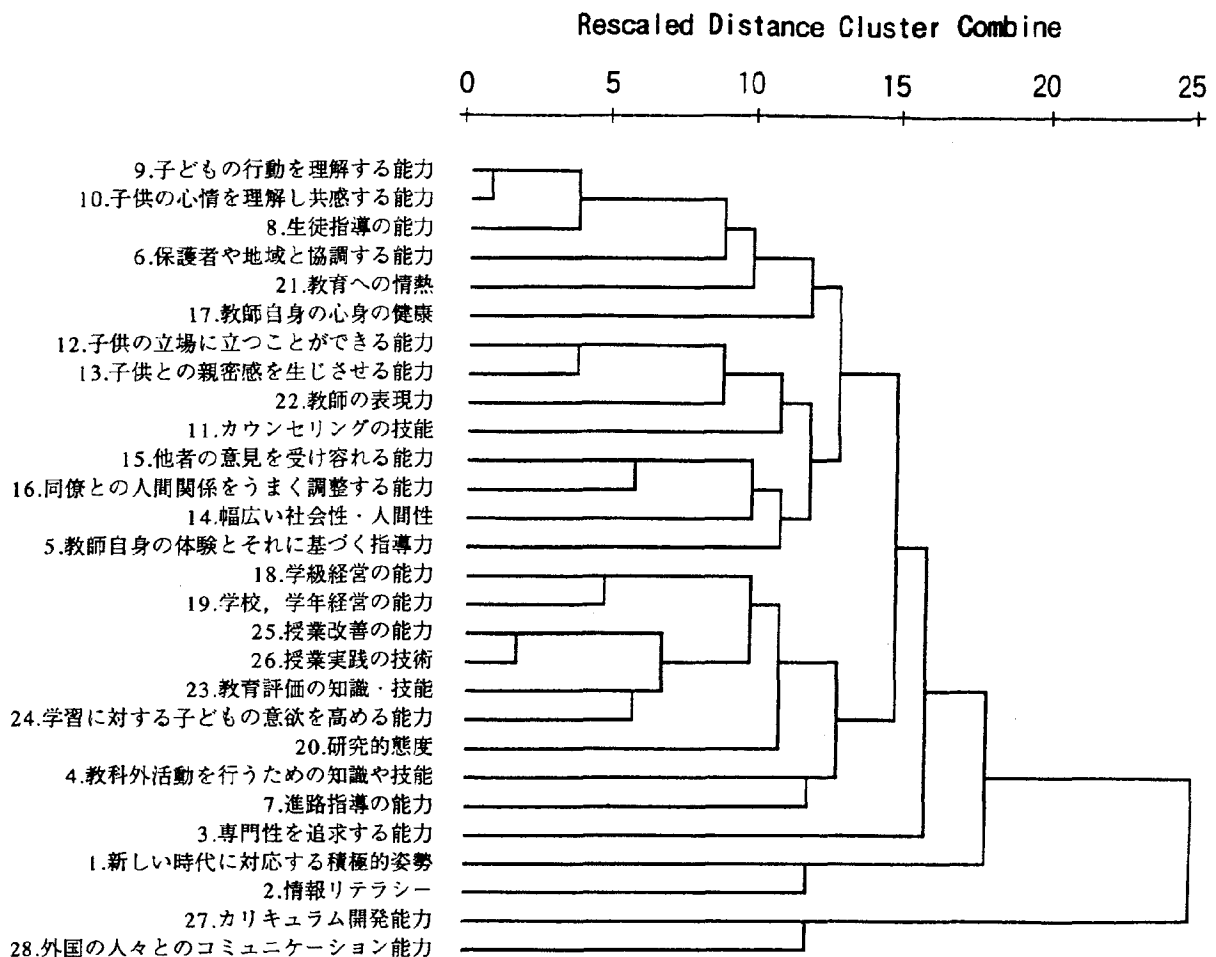


Fig. 3 クラスター分析による教師に必要な資質能力の分類

総合的考察

以上の結果から総合的に考えて、これからの教師に必要な資質能力として、Fig. 4 に示すような構造が妥当であるように考えられる。これらの資質能力の要因のなかには、小泉（1989）や井上（1993）の研究で指摘されているものも多い、したがって、教師は、以前より言われ続けてきた教師の資質能力をこれからも必要と考えているともいえよう。しかし、新しく強調されたものもいくつかある。例えば、「時代に対応する力」は、本研究の焦点からして当然ではあるが、変革の時代に特に必要とされる能力である。また、「生徒指導能力」や「学級経営能力」は、学校関係の問題が多発している現代の状況を反映していると考えられる。さらに、教師の社会性として、主として同僚との「人間関係」マネジメントや教師自身の「表現力」があがっている。総合学

習や生徒指導などに教師がグループで取り組む必要があり、単なる知識注入にとどまらない教育が要請されていることが関係しているかもしれない。

最後に、これからの教師に必要な資質能力の構造を Fig. 4 のように図解で示したことは本研究の新しい点である。しかし、こうした図解やその中の要素は、研究目的や研究者の主観、採用した質問項目等によって大きく影響されることは留意すべきである。

また、これは特に現職教員の認知構造から導き出されたものであることに留意する必要もある。したがって、教員を養成する側の大学教官、子どもを教師に預ける立場の保護者や一般社会人、さらには教師に教えられる立場の子ども達の認知構造についても調査検討することが今後の課題として考えられる。

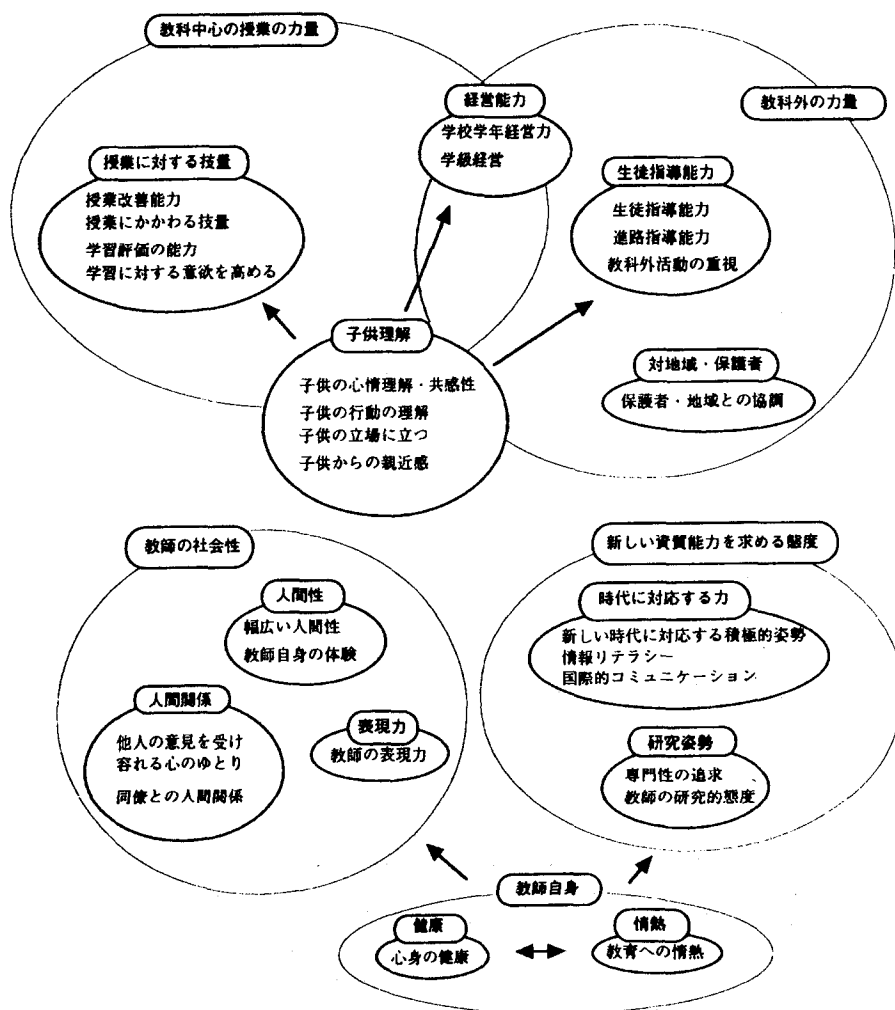


Fig. 4 総合的に考察したこれからの教師に必要な資質能力の構造

引用文献

- 藤田英典 1997 教育改革 ―共生時代の学校づくり―
岩波書店
- 井上正明 1993 教師の認知的力量と情意的力量の評価に関する教育心理学的研究 風間書房
- 小泉令三・内藤勇次・浅川潔司・古川雅文 1989 教員養成系
学部学生と教師の教職能力の認知構造の比較 ―自己の教職
能力評定を通して― 福岡教育大学紀要, 第4分冊, 38, 159-
170.
- 教育職員養成審議会 1997 教養審第1次答申
- 増田米二 1986 原典 情報社会 ―機会開発者の時代へ―
TBS・ブリタニカ
- 文部省 1998 魅力ある教員を求めて
- Sculley, J. 1987 Educom Keynote Speech (Draft) at
Educom at Peabody College for Teachers.

【付記】

本研究は、平成9年度教育改善推進費（学長裁量経費）の補助を受け、プロジェクトチームを組んで行われたものの一環である。プロジェクトチームのメンバーのうち、本論文の研究内容への寄与が大きかったもののみを著者とした。プロジェクトの他のメンバーに感謝するとともに、協力いただいた調査対象者の方々に感謝する。また、KJ法の分析とデータ入力にあたっては、兵庫教育大学大学院生、田中あゆみ、大濱裕司の両氏に多大なご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表する。

Appendix 1 これからの教師に必要な資質能力に関する調査項目（重要度を5段階評定）

- （1）新しい時代に対応する積極的姿勢
（広い視野、国際化・情報化などの新しい社会に対応した教育など）
- （2）情報リテラシー
（情報機器の操作能力、インターネットなどの利用、情報の選択力など）
- （3）専門生を追求する能力
（教科の専門的知識・技能、得意分野の能力を伸ばすなど）
- （4）教科野外活動を行うための知識や技能
（総合学習、同和教育、特別活動を行う技量など）
- （5）教師自身の体験とそれぞれに基づく指導力
（豊かな生活体験、大学での体験学習など）
- （6）保護者や地域と協調する能力
（家庭や地域から信頼され、密接な関係を保つ能力など）
- （7）進路指導の能力
（進路指導の授業、個別進路指導、進路相談の技能など）
- （8）生徒指導の能力
（問題行動、不登校、いじめなどへ対応できる能力など）
- （9）子どもの行動を理解する能力
（子どもの発達を理解し、観察などにより多面的に理解できる能力など）
- （10）子どもの心情を理解し共感する能力
（子どもの気持ち・内面への共感的理解、カウンセリングマインドなど）
- （11）カウンセリングの技能
（カウンセリングの知識・技術を身につけるなど）
- （12）子どもの立場に立つことができる能力
（子どもの意見重視、子どもの反応に応じた授業をする能力など）
- （13）子どもとの親密感を生じさせる能力
（子どもとの信頼関係があり、ユーモアがあり、子どもと遊べるなど）
- （14）幅広い社会性・人間性
（幅広い教養、社会常識をもち、高潔な人格・品性のある教師など）
- （15）他者の意見を受け容れる能力
（柔軟な考え方、違う意見の受け容れ、他者に尋ねることができるなど）
- （16）同僚との人間関係をうまく調整する能力
（同僚と協調し、協力して教育活動を進めることができるなど）
- （17）教師自身の心身の健康
（健康で、明るく、ストレスに強いことなど）
- （18）学級経営の能力
（学級教育目標の設定、環境整備、事務処理、評価の知識と力量など）
- （19）学校、学年経営の能力
（教育目標設定、学校・学級経営における課題解決、法規や職務の知識など）
- （20）研究的態度
（自己学習力、共同研究への参加、研究推進の指導力、実践記録など）
- （21）教育への情熱
（教師としての使命感、責任感など）
- （22）教師の表現力
（表情の豊かさ、感動体験の表現力など）
- （23）教育評価の知識・技能
（学習評価、一人ひとりの子どもの学習を評価する能力など）
- （24）学習に対する子どもの意欲を高める能力
（意欲・競争意識を高める、授業中の対人的技能、学習集団の組織など）
- （25）授業改善の能力
（授業方法の開発、教材の適切な配列など）
- （26）授業実践の技術
（指導案の作成、発問や板書の技術、教材研究・開発能力など）
- （27）カリキュラム開発能力
（カリキュラムを開発する能力など）
- （28）外国の人々とのコミュニケーション能力
（英語を話す能力、表現力、国際的な対人関係スキルなど）

A study of competence and skills that teachers need (1):An investigation of the factors of teachers' competence and skills

**Masafumi KOGAWA, Noriyasu NAGASAWA, Kazuaki YOKOGAWA,
Kinichi FUKUMOTO, Yuko HATANO, Yoshio KAWAAI, Masataka NAKASU**

The purpose of this study was to examine the factors and structures of competence and skills needed for teachers. 10 teachers and staff of educational boards were interviewed by investigators about what are the important capacities or skills for teachers. The data were analyzed with the KJ method, developed by J. Kawakita. Then a questionnaire of 28 items was constructed from the KJ results. 387 teachers and staff of educational boards responded to this questionnaire.

The data were analyzed by factor analysis and cluster analysis. These results were similar. The factors are as follows:

- (1) Ability to understand children:
sympathy, perspective taking, understanding children's behavior
- (2) Competence and skills for teaching:
teaching skills, evaluation skills, ability to enhance children's motivation to learn, ability to develop curriculum
- (3) Competence and skills for guidance:
counseling skills, career counseling skills, ability to guide students, conducting extra-curricular activities
School and classroom management
Cooperating with parents and community
- (4) Attitudes toward new competence and skills
Open attitude for adapting to a new age: information literacy, abilities to communicate with foreign people
Desire to seek out research in education
- (5) Personality and social skills of teachers
Interpersonal relationship management: coordinate colleagues and their relationships
Rich, and socially sensitive personality
Ability to express themselves as teachers
- (6) Health of teacher themselves
Healthy body and mind
Enthusiasm for education